

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790900056		
法人名	一般社団法人いがしま		
事業所名	グループホームいがしま		
所在地	沖縄県名護市字久志192番地		
自己評価作成日	平成27年10月23日	評価結果市町村受理日	平成28年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4790900056-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成27年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の思いを大事にしなが、その人らしく生活していただけるよう、日課を決めず、ある程度、自分の意志で生活できるよう個別支援に力を入れています。久志区が母体という事もあり、久志区との連携に力を入れて、近隣住民との繋がりを大事にしています。利用者様々々、役割を持っていただき生活にメリハリが出るように支援しています。喧嘩をする事もありますが、楽しく生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は地域の要望を受け、区が一般社団法人「いがしま」を設立し運営を開始している。因って、施設運営・防災対策・区行事参加など日常的に地域と連携しているため馴染みの関係が維持されている。区の全世帯に事業所の取り組みや日常の様子をまとめた新聞を配布している。また、区の独居老人に緊急時にボタン一つで事業所に電話につながる仕組みを構築する等地域に根ざしている。玄関に繋がる駐車場には「子供会や婦人会」が手入れ管理している花壇があり、住民の事業所への理解協力の姿勢の一端を感じる事が出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成28年1月8日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は見える場所に掲示し、個人にも印刷して渡しており、いつでも実践できるよう取り組んでいる。	区民で構成する開設時の理事が「地域のお年寄りには地域でお世話する。地域密着型で大事にしっかりと守っていききたい」との思いを込めて作成した。管理者も職員も施設運営や利用者への対応を検討する際、理念に即した日常支援を展開したいと考え活用している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には職員・利用者様共に参加している。散歩などを通して利用者様と近隣住民との立ち話も多い。	地域行事の川舂み・トリムマラソン・新1年生合同祝い・今年度誕生した新生児祝賀会・運動会・豊年祭・敬老会等毎月のようにあり、昼食もご馳走になりながら参加している。施設では中学校の職場体験や保育園児のエイサー訪問や散歩中の友人知人との交流も楽しんでいる。	当事業所は日常的に当地域とのつながりを持っているが、今後は他の地域とも連携を広げ住民の要望に沿った運営をしたいと模索している。今後の活動に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新聞、ボランティア等を通して、認知症の方の支援方法について説明・報告し理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームいがしまの大きな課題と思われる。できる限り、開催しサービスの向上に繋げていきたい。開催時も、参加者からの意見も少なく、意見を気軽に言える雰囲気作りにも力を入れたい。	運営推進会議には利用者家族・市職員・区長・医療機関代表者・民生委員が参加し、利用者の介護度分布や活動・ヒヤリハット等を報告し停電時対策のソーラーシステムや蓄電池使用等施設の運営や設備に至る多様な事柄を意見交換している。	運営推進会議は利用者家族の理解を深め地域に密着したニーズに即した支援を模索する機会であり、2か月に1回定期開催を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者には運営推進会議時に報告し、必要性があれば、市役所へ直接訪問。または、メールや電話などで連携・協力を依頼している。	市から台風・防災の連絡があり、管理者研修や実践者研修等の案内がある。保護費の自立支援の相談や障害者年金の申請、包括支援センターとは入所相談など連携している。又、当区の諸行事には市担当者の参加もあり随時連携を大事にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為を理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、拘束の必要性もなく、時折、玄関から出ていく方もおられるが、一緒に付いていき対応している。	身体拘束は基より行動制限もなく「行きたい時に行きたい所に出かけられる」支援を心掛けている。お金を所持している利用者には拘りの薬局や商店で使い慣れたお薬やお菓子の買い物支援や事業所周辺の散策など個別の対応を大切に、一人で散歩できる利用者には地域住民や公民館職員と連携し保護に努めている。	

沖縄県(グループホームいがしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等の機会を確保するのが難しい面もあるが、日々のケアで気づいた事などを職員間で意見交換しながら取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、地域権利擁護事業を利用したい方がおられるが関わり方等が勉強になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に読合せを行い、十分な説明を行い理解を得ている。その日だけで理解するのが難しい項目もあるので入所後も疑問があれば投げかけてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者様からの意見があれば、職員会議や連絡ノートで情報の共有を図っているが、外部者に表せる機会を作るまでには至っていない。	利用者の思いは「買い物に行きたい・何もしたくない・家に帰りたい・子や孫に会いたい・綺麗にしたい」など具体的な要望がありドライブしながらの買い物や故郷訪問・面会、家族との外出や化粧など対応している。又 家族は施設を利用しながら利用者が安らかな日々の生活が継続できることを願っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に職員が意見を寄せやすいように努めている。出て意見は、報告できる範囲で上司へ報告しサービス向上に繋げる努力をしている。	月1回の職員会議を持ち利用者の様態を共通認識しケアプランに沿った対応をしている。外出や行事の取り組みなどを職員が検討し実施している。又お便り新聞・写真・作品づくり等は職員の得意分野で役割分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭の事情に考慮しながら職員全員が社会参加できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み	研修・講習会にはなるべく参加を勧めているが、参加の機会を確保する事が不十分である。職員の休日に参加する場合もある。		

沖縄県(グループホームいがしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は適宜、他事業所を訪問し情報交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の見学・体験利用を通して出来ればホームへ来ていただき、顔なじみの関係を築き、信頼関係構築を目指している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接で運営内容を理解していただき、要望等を聞き取りながら信頼関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前のサービス等も考慮しながら、事前に本人との面会を行い、家族も含め対応を考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係	共に生活していく上で上下関係はなく、共に支え合いながら過ごしていけるように考え関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様やご家族からの要望に応えられるよう面会時の時間を通して相談したり相談を受けたり、そういった関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設は常に開放されており面会は自由に行ける。また、施設外へ出かけ、これまでの馴染みの関係の継続できる支援を家族と共にしている。	利用者の職歴経歴・生活習慣を把握し、毎月のように開催される区主催の行事に参加し振る舞われる昼食を楽しみながら友人知人・家族と交流を続けている。又、面会には家族友人の訪問もあり談笑や外出を楽しんでいる。正月・シーミー・お盆時期には帰宅し久志観音の初詣や前入所施設訪問など継続し馴染みの関係を支援している。	

沖縄県(グループホームいがしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人が孤立しないように利用者同士の関りを深めている。役割を分担しながら一緒に行うなどの工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も気軽に施設に遊びに来ていただいたり、これまでの関係を継続している。必要性があれば現在の生活のフォローを行うなどの支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉に耳を傾けるよう努めている。また、表現できない方は、家族に相談したりして本人の意向に近い物を探りできるだけ近いものを検討している	日常生活支援の中で「家に帰りたい・買い物に行きたい・散歩したい・寂しい・家族に会いたい」など具体的な要望がありその都度個別対応している。又要望が伝えられない利用者には表情や仕草等で判断し利用者の明るい表情や肯定的な動作が確認できる事柄を見つけ「思いや意向」の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に生活歴を尋ね、アセスメントシートを活用し、把握している。いつでも把握できるように本人の情報は観覧できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日誌、チェック表、ケース記録等を用いて情報共有し現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から要望を聞き、スタッフと話し合い、現状に即した介護計画となるよう努めている。大きな変化はないがモニタリング記録は毎月実施している。	サービス担当者会議には利用者家族・職員・管理者・介護支援専門員が更新時や状態変化に応じて開催し、利用者家族の要望を確認し「手土産を持って前の施設を訪問したい」など具体的で、日々の介護経過記録を熟読するだけで状況が再現できる「発言やその様子」が記録されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を参考にし、介護計画の見直し時活用している		

沖縄県(グループホームいがしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ・家族が共に協力し合い本人の意思を尊重した対応をしているが、多機能と解釈するにはもう少し、いろいろなサービスや支援方法を検討する必要がある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ・公民館活動に積極的に参加し一人一人が楽しめるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くではないが、かかりつけ医と何かあればすぐに診てもらえる環境で、利用者、家族ともに安心していただいている	かかりつけ医の受診は家族対応だが困難な場合は事業所に対応している。介護タクシーの付き添いサービスで他科受診をすることもある。受診結果は家族から口頭で受けたり、医師へ電話で確認し連携をとっている。職員には連絡ノートで情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には配置していないが、協力医療機関と24時間体制で連絡を取れる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での様子を報告し、退院時にはカンファレンスに参加して病院関係者との意見交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期を迎えた場合に本人・ご家族の希望を聞いている。時期を迎えなくとも方針について話をしておくべきではないのだろうか等、課題は多い。	看取りに関しては家族、職員とも話し合い対応する方針であるが明文化には至っていない。喀痰吸引行為の職員の資格取得を勧めている段階である。重度の状態変化では協力医療機関とは24時間オンコール体制であり病院への搬送を事前説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段の話し合いやマニュアルでは、実際に起きた時に対応が不十分。実践力をどうやって身に付けていくか課題は多い。		

沖縄県(グループホームいがしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設としての課題と思われる。開催回数も不十分。協力体制を形成すると共に改善していきたい。	前回の避難訓練では久志区の防災マップを活用し実際に高台までの避難を経験、近隣住民の協力が必要不可欠だと実感した。地域の消防団もあり、停電時、自治会より発電機を借りるなど地域の協力を得やすい環境である。マニュアルや備蓄を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけだけでなく、職員の動きなども意識してプライバシー保護に努めている。	職員は利用者1人ひとりにあった言葉使い(久志区独特の方言等)で目線を合わせた声掛けし、コミュニケーションをとっている。愛犬と一緒に入居し中庭で飼っている利用者や、家事の好きな利用者に洗濯たたみをお願いする等、役割を増やし自尊心を保っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	雰囲気作りを意識したり、我慢強く待つなどして、利用者本人の言うことに耳を傾けるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課にしばられることなく、利用者様が自分で決めて生活できるよう見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設に美容師さんに来ていただき、カットや毛染めなど好みの髪型にしている。同様の事を職員でも行う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物・調理の下準備、後片付け、利用者様と職員と一緒に取り組んでいる。必要に応じて食事の形態も調整し、職員・利用者様が一緒に食べている。	調理専門職員が利用者の希望を聞き3食手作りし、調理職員が休みの日は他の職員が交代で調理している。利用者も庭の野菜収穫やお膳拭き等、参加している。利用者の食事介助をしながら職員全員一緒に談笑し、おかずの交換をしたり和やかで家庭的な食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理担当の職員がバランスのとれたメニューを考えている。食事量は一人一人記録し摂取量が適正かどうか観察している。水分チェックに関しては現在、行っていない。		

沖縄県(グループホームいがしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後歯磨きの声かけを行っている。必要な方には、訪問歯科医に診ていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては自立または声かけ誘導にて対応している。1名のかたのみベッド上での支援になるが、排便コントロールを行うなどの支援をしている。	ほとんどが自立し見守り支援だが、個別の排泄チェック表を作成し排泄パターンを把握、長い時間訴えがない方は職員が声掛けしている。拒否がある場合は無理強いはしないように心がけている。家族より便秘対策にとの提案でココナッツオイルなどを試している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ココナッツオイルやヨーグルトなどをおやつ時に摂っていただき、便秘解消できるよう努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週3回、大まかな予定は施設で立てているが、その時の状況に応じて臨機応変に対応している	利用者の希望や状況に応じ、いつでも入浴できるよう1人ひとりに対応している。毛染めしたいとの要望にも応えている。入浴時に音楽をかけたり本人の好みのシャンプーなど個別に準備し、自分の好きな服に着替えている。浴室や脱衣所は、ヒーターや扇風機で温度管理している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく体を動かし又午後のお昼寝を短時間にして夜間の睡眠の妨げないように気を使っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医、看護師から説明を受けている。また、お薬説明書は職員一人一人が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気の良い日は気分転換で近隣を散歩。適宜、ドライブを行うなど活気ある生活が送れるように支援している。また、各々で役割を持っていただき利用者様との交流を図っている。		

沖縄県(グループホームいがしま)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる範囲ではあるが、適宜、本人から要望があれば支援している。遠方までの外出が困難であれば近隣までミニドライブを行う。病院受診の支援時に買物・外食等実施。	自由に近所の散歩や家庭菜園の野菜を収穫に外出できるよう、見守り支援している。家族の命日に自宅へ帰ったり、空き家となっている家に戻り庭のシークワサーをお土産に採って帰ってきたりしている。買い物や外食も入居者の希望に沿って個別支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に応じて対応するが、現在は2名の利用者様が自己管理。1名の方が事業所管理。外出時に金銭のやり取りができるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自由にしてもらっている。手紙を出す機会はないが、電話の要望があれば支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に飾り付けを施したり、写真を貼るなど雰囲気作りを行っている。基地が近く、夜通し不快な音が出る場合もあるが、できる限り、不快な音がないようにしている。	対面キッチンで美味しそうな匂いや調理の様子が居間から見える。トイレや浴室などは動線とプライバシーに配慮され、畳間は腰かけたり横になり休息できるような造りとなっている。玄関は季節の飾り、各廊下には外出時や中学生の体験学習の写真、文化祭展示作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓、居室等それぞれの定位置で過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使用していた、タンスや鏡台、テレビ等、好みのものを持ちこんでもらい安心して生活できるよう配慮している	テレビや整理ダンス、家族の位牌、使い慣れた寝具を持ちこみ居心地良く生活できるよう支援し、アロマや家族の写真、趣味の作品や興味のある新聞記事などを壁に貼り、個性豊かな居室となっている。又、居室はベランダにつながり風や光に触れ季節も楽しみ開放的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	つい手を貸してしまうケースもあるが、一人一人のできる・できないを把握し環境整備に努めながら自立した生活が送れるように支援している。		